

Higher Separating of Links

大川 哲 介

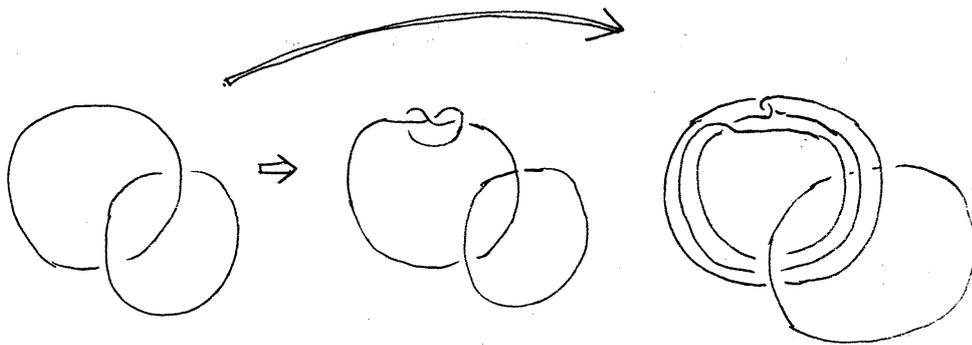
目的: knot については, ある程度分ったものとし, その上に相対的な, link の不変量・性質・同値関係等を, 調べる. 最も基本的な不変量は, linking number であり, その拡張として, Milnor μ -invariant が定義されている.

ここでは, PL-isotopy, F -isotopy, n -separability 等について考える. 主に群論的方法で不変量が定義されるので, コホモロジーとの関連は, はっきりせず, これからの問題と云える.

諸定義: 全て, S^3 内の tame な link を考える. 本論では向きは考えない. 但し各成分には 1 から μ まで (μ は成分の数) 番号がついているものとし, $L = \cup_{i=1}^{\mu} L_i$ の如く書表わす. (注: isotopy と云う以上は当然向きを考えているが, ここで考える invariant は, 向きによらぬと云う意味である)

$L = \cup_{i=1}^{\mu} L_i$, $L' = \cup_{i=1}^{\mu} L'_i$ を μ -component link とする. L の一, の成分上に局所的な knot を付加え

て、 L' が得られるとき、 L' は L に elementary PL-isotopic であると言ひ、その関係から得られた同値関係を PL-isotopic と言ふ。 L の1つの成分 L_i の正則近傍を N ($N \cap L_j = \emptyset$ ($i \neq j$)) とし、 $L'_i = L_i$ ($j \neq i$)、 $L'_i \subset \text{Int } N$ 、かつ L'_i の N に於ける winding number は1であるとき、 L' は L に elementary F-isotopic であると言ひ、これにより定 成された同値関係を F-isotopic と言ふ。F-isotopic は、 PL-isotopic を含む。



elementary PL-isotopy

elementary F-isotopy

L が (S_1, S_2, \dots, S_μ) -separable であるとは、次の条件 を満たす多面体列 K_{ij} が存在することを言ふ。 ($S_i \geq 0$)

$$\textcircled{1} \quad K_{ij} \subset S^3 \quad (i=1, \dots, \mu, \quad j=0, 1, \dots, S_i)$$

$$\textcircled{2} \quad L_i = K_{i0} \subset K_{i1} \subset \dots \subset K_{iS_i}$$

$$\textcircled{3} \quad K_{iS_i} \cap K_{jS_j} = \emptyset \quad (i \neq j)$$

$$\textcircled{4} \quad K_{i,p} \subset K_{i,p+1} \quad \text{から導かれる 準同形}$$

$$H_1(K_{i,p}; \mathbb{Z}) \rightarrow H_1(K_{i,p+1}; \mathbb{Z}) \quad \text{が零写像}$$

$$(i=1, \dots, \mu, p=0, 1, \dots, s_i-1)$$

(s, s, \dots, s) -separable を, 単に S -separable と云う.

$\mu=2$, $p+q = p'+q'$ のとき, $(p, q, p', q' \geq 0)$, (p, q) -separability と (p', q') -separability は同値であることがすぐ分る.

次に, 群系なる概念を導入する. 群 G と, $m_i, l_i \in G$ ($i=1, 2, \dots, \mu$) の組 $\mathcal{G} = (G, m_1, l_1, \dots, m_\mu, l_\mu)$ を, 群系と呼ぶ. \mathcal{G} と $\mathcal{G}' = (G', m'_1, l'_1, \dots, m'_\mu, l'_\mu)$ が同値であるとは, $\exists \varphi: G \rightarrow G'$: 同型写像, $\exists a_1, \dots, a_\mu \in G'$, $\varphi(m_i) = a_i^{-1} m'_i a_i$, $\varphi(l_i) = a_i^{-1} l'_i a_i$ となることを云う. 群 G の降中心列を $\Gamma_1 G = G$, $\Gamma_{n+1} G = [\Gamma_n G, G]$ で定める. さらに

$\mathcal{Q} X$: X で生成された部分群

$N\mathcal{Q} X$: X で生成された正規部分群

$$A \cap B = \mathcal{Q} \{ b^{-1} a b \mid a \in A, b \in B \}$$

$$A_{p\mathcal{G}} = N\mathcal{Q} \cup_{i=1}^{\mu} \Gamma_{\mathcal{G}}(\{m_i\}) \cap \Gamma_p N\mathcal{Q}(\{m_i\})$$

$$B_{p\mathcal{G}} = N\mathcal{Q} \cup_{i=1}^{\mu} \Gamma_{\mathcal{G}}(\{m_i, l_i\}) \cap \Gamma_p N\mathcal{Q}(\{m_i, l_i\})$$

$$\tilde{A}_{p\mathcal{G}} = G / A_{p\mathcal{G}}$$

$$\tilde{B}_{p\mathcal{G}} = G / B_{p\mathcal{G}}$$

$$\mathcal{G} = \{G, m, l\} \text{ に対し } C_0 \mathcal{G} = G,$$

$$C_{n+1} \mathcal{G} = [C_n \mathcal{G}, C_n \mathcal{G}] \cdot (\{m\} \cap C_n \mathcal{G})$$

一般の G に対して

$$C_n G = \mathcal{Q} \cup_{i=1}^{\mu} C_n(G, m_i, l_i)$$

$$\tilde{C}_n G = G / C_n G \quad \dots \text{と定義する.}$$

link $L = \cup_{i=1}^{\mu} L_i$ が与えられたとき, それに対する群系 $G = (G, m_1, l_1; m_2, l_2; \dots; m_{\mu}, l_{\mu})$ を,

$G = \pi_1(S^3 - L)$, m_i, l_i は各々, L_i の meridian, longitude, $(m_i, l_i) = 1$ ($i=1, \dots, \mu$) として与える.

この様な与え方は, 変換 $m_i \rightarrow m_i^{\pm 1}$, $l_i \rightarrow l_i^{\pm 1}$, 及び群系の同値を除いて一意に定まる. 初めに L を \mathbb{R}^3 内の link に限ったが, 以後, 断わらぬ限り, $L \subset M^3$ (M^3 : connected 3-mfd) として考える. このとき, l_i のとり方として, L_i が M^3 で homologous to 0 のときは l_i も, $M^3 - L_i$ で homologous to 0 のものを取り, そうでない場合は, 単なる longitude を勝手に取る. 最初に述べた, PL-isotopy 等の概念は, 一般の M^3 内でも, 同様に定義出来る.

諸定理:

定理 1. L, L' を, M^3 内の link (with μ -components), それらに対する群系を, G, G' とせよ. そのとき

i) L と L' が PL-isotopic ならば

$$\tilde{\text{Apg}} G \approx \tilde{\text{Apg}} G' \quad (p, q \geq 1)$$

ii) L と L' が, F-isotopic ならば,

$$\widetilde{B}_{p\mathbb{Z}} G \approx \widetilde{B}_{p\mathbb{Z}} G' \quad (p, q \geq 1)$$

(但し \approx は群の同型を意味する)

定理 2. L を M^3 内の link で, L は S -separable であるとする. L の群系を $G = (G, m_1, l_1, \dots, m_\mu, l_\mu)$ とするとき, $l_i \in C_S G$ ($i=1, \dots, \mu$)

系. L を S^3 内の 2-component link, $G = (G, m_1, l_1; m_2, l_2)$ をその群系, $G' = (G, m_1, l_1)$ とす. L が $(S, 0)$ -separable ならば $l_1 \in C_S G'$

定理 1 の系. L を S^3 内の link とする. $G = \pi_1(S^3 - L)$ とするとき $G/\Gamma_p G$ ($p=1, 2, \dots$) は L の F -isotopy-invariant である.

注意: これは Giffen の結果 (F -isotopy \Rightarrow topological cobordant) Stallings の結果 ($G/\Gamma_p G$ は topological cobordism invariant) を使っても得られる. しかし, 我々の結果は $p = \infty$ (但し $\Gamma_\infty G = \bigcap_{i=1}^\infty \Gamma_p G$) でも成立する. 定理 1 も $1 \leq p, q \leq \infty$ とし成立する. 証明は, 以下に述べる有限の場合と全く同様である.

定理 3. L を M^3 内の link で, M : compact とする. さらに H を有限群とするとき, $\widetilde{A}_{p\mathbb{Z}} G, \widetilde{B}_{p\mathbb{Z}} G, \widetilde{C}_p G$ から H への準同形の総数, 全写準同型の総数等は計算可能である. 但し G は, link L の群系.

固定された群 H への準同型の総数等は明らかに群の不変量であるから、これを基由し、link の $PL(F)$ -isotopy invariant となり、また S -separable でないことを判定出来る計算可能不変量となっている。ここでは有限群を値域に考えたが、有限次元線型群を考えると、準同型全体は、定義域が有限生成なら、有限次元 affine variety となり、その交環が計算可能となるから、より簡率的な不変量を得ることが出来る。以下、定理 1 の略証を与えることにする

定理 1 の略証

① $Ap_g G$ 等の構成法より、 $\mu = 1$ 、即ち knot の場合に証明すれば、十分である。

② さらに elementary $PL(F)$ -isotopy の場合に限って良い。

③ L' を L に elementary $PL(F)$ -isotopic な knot とする。 $G = \pi_1(M^3 - L)$ 、 $G' = \pi_1(M^3 - L')$ 、 $N: L$ の開正則近傍、 $L' \subset \text{Int } N$ とする。すると、 \square 式

$$M^3 - \text{Int } N \supset \partial N \subset N - L'$$

より、 $G' = \text{push out } \left\{ \begin{array}{ccc} G & \longleftarrow & \mathbb{Z}^2 \\ & & \nearrow \\ & & \pi_1(N - L') \end{array} \right\} \quad (1)$

が得られる。さらに PL -isotopy の場合は、 $N_1: L$ のある 1 点の十分小さな正則近傍で、 $N_1 \cap L \approx I$ かつ。これは、

N_1 の中で knot してないとし, $L - N_1 = L' - N_1$ とする.

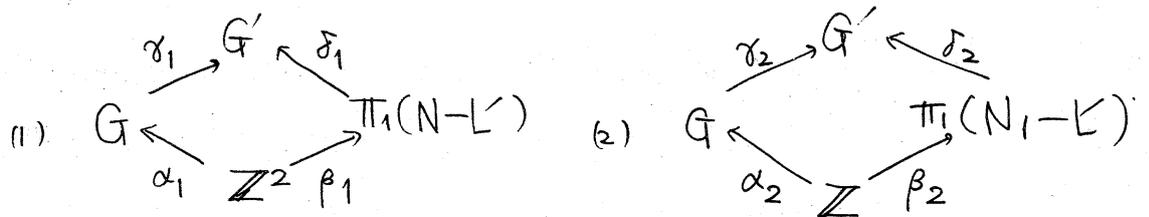


すると, $\pi_1(M - L) = \pi_1(M - (L \cup N_1)) = G$ となる. 図式

$$M - L - \text{Int } N_1 \supset \partial N_1 - L \subset N_1 - L'$$

より, $G' = \text{push out } \left(G \begin{array}{c} \swarrow \mathbb{Z} \searrow \\ \pi_1(N_1 - L') \end{array} \right) \text{ (2)}$

が成立する. (1), (2) に於ける \mathbb{Z}^2 , \mathbb{Z} は $\{m, l\}$, $\{m\}$ によって生成された G の部分群とも見られる. 但し $G = \langle G, m, l \rangle$ を L の群系とする. これらの図式に操作 $\tilde{A}_{\mathbb{Z}^2}$, $\tilde{B}_{\mathbb{Z}}$ を施して, 自然射 $G \rightarrow G'$ がこれらの群の同型を惹起することを云えば良い. 図式①, ②の push out 図式に現れる射を次の如く名付ける.



④ β_1, β_2 は, Abel 化群の同型を引起す.

⑤ これより, $\Gamma_2 \pi_1(N_1 - L') = \Gamma_3 \pi_1(N_1 - L') = \Gamma_4 \dots$

及び, $\Gamma_2 \pi_1(N - L) = \Gamma_3 \pi_1(N - L) = \Gamma_4 \dots$

が従う.

⑥ さらに,

$$\pi_1(N-L) \subset \{m, l\} \amalg \pi_1(N-L')$$

$$\pi_1(N_1-L') \subset \{m\} \amalg \pi_1(N_1-L')$$

⑦ これらと⑤を合わせて

$$\pi_1(N-L) \subset \{m, l\} \amalg \Gamma_p \pi_1(N-L')$$

$$\pi_1(N_1-L') \subset \{m\} \amalg \Gamma_p \pi_1(N_1-L')$$

⑧ さらに

$$\tilde{A}_{pg} \{ \pi_1(N_1-L'); m, l \} \approx \mathbb{Z}$$

$$\tilde{B}_{pg} \{ \pi_1(N-L'); m, l \} \approx \mathbb{Z}^2$$

と合わせて求める結果を得る.

定理2, 3の証明は略するが, 定理2の証明は本質的に同じ差で生える. 幾何学的には, $\{m\} \amalg \dots$ を取っているところからも分かる様に, meridian以外の部分をほぐす covering を繰り返し使って link の成分を分離するところにある.

定理1では, 2回しかくり返していないが, 多重に繰り返すことにより, $\tilde{A}_{p_1 p_2 \dots p_n G}$, $\tilde{B}_{p_1 p_2 \dots p_n G}$ なる不変量を得ることが出来る.